

令和5年度 第3回台東区高齢者保健福祉推進協議会議事概要

日 時	令和5年10月31日（火）19:00～19:55
場 所	台東区役所 10階 1003会議室
出席委員	新田会長、高良副会長、田村委員、堀委員、鬼久保委員、野田委員、高橋委員、渡邊委員、里委員、河井委員、政木委員、鈴木委員、田中委員、長谷川委員、佐々木委員、高木委員
議題	第9期計画中間のまとめ（案）について
会議資料	資料1 第9期台東区高齢者保健福祉計画・台東区介護保険事業計画 中間のまとめ（案）について 資料2 第9期台東区高齢者保健福祉計画・台東区介護保険事業計画策定スケジュール 別冊 第9期計画中間のまとめ（案）

■ 会議次第

1. 開会

事務局より開会が宣言され、会長より挨拶があった。

(会長)

今日は第3回目の高齢者保健福祉協議会で、第9期の高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の案について議論することになる。この第9期計画は、2025年にちょうど団塊世代の皆様が後期高齢者になる時期の計画になるので、これまで以上に、様々な保健・医療・福祉の施策を展開していかないといけない、重要な計画になるのではないかと思っている。

皆様方から忌憚のないご意見を頂戴し、より良い計画を作れば、と考えている。

2. 議題

第9期計画中間のまとめ(案)について

事務局より資料1、1～4について説明があった。

(委員)

今後は認知症やフレイルにならないようにするにはどうしたら良いか、なってしまったら早期発見するにはどうしたら良いかが、重要になってくる。フレイルは予防できるので、どのようにして予防していくかが、今後の高齢者福祉の中心になってくる。健康寿命と平均寿命の差を少しでも縮めていき、皆がいつまでも健康でいられるような方向に持っていかないといけない。

(事務局)

介護予防やフレイル予防、認知症対策にも力を入れて取り組みたい。

(委員)

認知症は早期であっても、専門医が非常に悩ましい症例がたくさんあり、拾い上げていくと今後は医療機関との連携やキャパシティの問題なども出てくると思う。総合病院や認知症医療センターとの連携を、今後どのように進めていくのか教えて欲しい。

(事務局)

今も永寿総合病院や認知症疾患医療センターと連携をしながら進めているところだが、来年度は認知症検診も新たに打ち出しているなので、より一層連携を深めていきたいと考えている。

(委員)

フレイルは予防が非常に大切である。歯科ではフレイルを発見する機会が非常に多いので、フレイル予防活動の中に早期発見を入れていただけると良い。

(事務局)

予防の観点はとても重要なので、文言を見直し、調整したい。

(委員)

今後、在宅医療を受ける方が増えると提供する側の負担も大きくなるが、その事業に対して、どのような仕組みを作っていくのか。どうしたら提供する側が働きやすくなり、充実した在宅診療を提供できるかを、もっと踏み込んで考えて欲しい。

(事務局)

現在台東病院にある在宅療養支援窓口などで、相談に対応すること、ICTで多職種間の情報共有をして、連携しやすくするという環境整備の取組を行っている。大変な在宅療養を支え、推進するための基盤を整備し、連携を強化するといった取組は、まだまだ必要になるため、所管課と連携をしながら進めていきたい。

(委員)

ICTを活用した見守りと、(1)相談・支援体制の推進の4番の地域福祉コーディネーターについて、具体的に教えて欲しい。

(事務局)

ICTを活用した見守りは、ハローライトというLED電球を、見守りが必要な方の洗面所や御手洗に設置し、点灯・消灯が24時間以上ない場合、区と地域包括支援センターにメールが届くので、安否確認をするというものである。

地域福祉コーディネーターについては、現在社会福祉協議会で仕事をしている職員がおり、実際に地域に入って活躍をしています。今後区役所の福祉課にも設置する予定で、複合的な課題を抱える相談に対して、現在でも横の連携をとっているが、より強化して円滑に支援を提供できる形での活躍を想定している。現在細かい内容や配置の検討を進めているところである。

(委員)

介護者が、介護を受ける人の家に入るとき、家の状態がきちんとしていないと色々支障をきたすことが多いので、その辺を具体的にに入れて欲しい。救急安心カードとは何か教えてほしい。

(事務局)

救急安心カードは、自分の緊急連絡先やかかりつけ医などの情報を記入し、持ち歩けるようにしたものである。

(委員)

一般避難所では対応が困難な高齢者のために二次避難所を開設する、とあるが、二次避難所は障害関係の方もたくさん来るので、どの程度の高齢者までを考えているのか、予め範囲を決めておかないと混乱すると思う。

(委員)

尊厳ある人生をどのように過ごしていきたいかの意思表示になる ACP について、どんどん周知して広めて行って欲しい。

(委員)

古い建物が綺麗に建て替わると、家賃が高くなり、高齢者を受け入れなくなることが多いため、高齢者が引っ越し出来ない状況がある。その結果まだ在宅ができるのに、環境がないから施設にしか行き場がないという状況がある。高齢者の住宅確保の視点を、ぜひ入れて欲しい。

(事務局)

施策としては 64 ページに、高齢者の住まいの確保と住まい環境の向上を挙げている。引き続き、所管課と連携を取りながら、進めて参りたい。

(委員)

シルバー人材センター等、一人暮らしの高齢男性などが退職後に、うまく地域に移行できるような対策を増やして欲しい。ヤングケアラーは子ども自身が認識していることはほとんどなく、周りの人が気付くことが多いので、区職員向けの研修・講習会だけでなく、ケアマネジャーに対する周知も含めると良い。

(事務局)

シルバー人材センターについては、生きがいづくりや居場所づくりとしても大事な事業だと考えている。ヤングケアラーについては、包括支援センターやケアマネ等とも連携しながら進めて行きたい。

事務局より資料1「5 介護保険事業計画」について説明を行った。

(委員)

要支援・要介護認定者数の推計は、要支援と要介護を別にして欲しい。

(事務局)

本編には要支援1、2、要介護1～5と、段階ごとに全て載せる。

(委員)

ケアマネジャーも高齢化している中、10年、15年先には更に需要が上回り、家族がいない人は介護を受けられない社会に逆戻りしかねない。フレイル予防は本気で取り組まないと、介護を受ける人の増加は止められないと思う。

3. その他

今後のスケジュールについて

事務局より今後のスケジュールについて説明があった。

4. 閉会

会長より閉会が宣言された。

(以上)